

なぜあいさつをするのでしょうか？

<5 / 15 校長講話から>

「なぜあいさつをするのでしょうか」校長講話で子どもたちに尋ねてみました。しばらく沈黙があったから、「あいさつをすると気持ちがいいからです」と5年生児童が答えてくれました。日常生活でもよくあいさつができる児童ですので、日々の経験の中から生まれた素直な言葉だったと思います。本質をついている意見ですね。また全校の前で発言することはとても勇気のいることだと思いますが、誰も言う人がいなかった時に自分の考えを言ってくれたことが立派でした。あいさつの理由については、5年生の言ってくれたことも含めいくつか挙げられます。

- ・あいさつは話をする時のきっかけになるから
- ・あいさつをすると仲良くなるから
- ・あいさつは歓迎することだから
- ・あいさつは礼儀だから
- ・あいさつはルールだから
- ・あいさつは人として当たり前だから
- ・あいさつをすると気持ち良くなるから
- ・あいさつは体の調子を聞くことだから
- ・あいさつは相手を大切に思うことだから

……………

他にもあるでしょうが、あいさつの理由としてこれらすべて正解なのです。共通しているのは、いずれも相手がいること、相手を意識していることです。あいさつは相手とのコミュニケーションなのです。

あいさつについて次のような話があります。昔、寺で一番偉い先生（師匠）とそこで修行しているお坊さんが、またはお坊さん同士が質問をし合いました（禅問答）。相手がどんな勉強をして力をつけているか、どのくらい学びを深めているかを調べ合うのです。しっかりやっているかやっていないかを調べ合う時のやり取り、つまり「相手の悟りの深浅を試みること」を表した言葉「一挨一拶（いちあい いちさつ）」が、「あいさつ」の語源のようです。何人かの児童が講話の感想を寄せてくれましたが、「あいさつがお坊さんと関係あるとは知らなかったです」という感想が多くありました。とても興味深いですね。

<心を開いて近づく>

「あいさつ」を漢字で書くと「挨拶」となります。この意味についても講話で触れましたが、次のようなことが分かりました。

「挨」：押し開く 互いに心を開いて近づく 攻め込む

「拶」：迫る すり寄る 攻める

これらから、「挨拶」とは「出会った人が互いに心を開いて相手に迫っていく」ということになります。その意味からすると、先ほどの「禅問答」は決して形式的な単純なものではなく、修行しているお坊さんの真剣な学び合いだったのではないかと思います。お坊さんが互いに心を通わせて互いを高め合っていたと思われます。現代では「修行」「学び合い」といった内容から、「親愛」「礼儀」

「コミュニケーション」の意味合いになってきていますが、相手を意識したものであることは昔と変わりません。挨拶については学校アンケート等でも印象を知ることができましたが、児童、保護者、学校職員で評価が若干分かれていることがありました。どんな様子が見られた時に「挨拶がよくできる」となるのか、今後このずれが少しずつなくなっていくようにしたいと思います。



児童一人一人に挨拶する代表委員



信頼とあこがれ

本校では挨拶について、児童会が目標「笑顔いっぱい！～みんなであるこう～」にも掲げています。この「あるこう」の「あ」は、挨拶の「あ」です。児童会では、挨拶をこれまで以上に日常に位置づけようと様々な工夫をしています。現在は毎日ミッションが出されて、それをクリアした児童は「挨拶名人」として全校で紹介されています。今後も挨拶を大切に考えてまいります。

<縦割り集会 5/14>

本年度大切にしている活動のひとつに「縦割り活動」があります。全校の児童を異年齢のグループで編成し、それぞれの班の班長と、全体の責任者である班長会長が今年一年の「縦割り活動」をリードしていきます。今月は縦割り班が結成され、縦割り清掃の準備を進めて活動が始まりました。5月14日から早速縦割り清掃が始まっています。



班長が並べます



自己紹介をします



縦割り清掃の計画をたてます

縦割り班による清掃は6年生がリードして、整然とした中でできばきと活動が進んでいきます。先輩の清掃に対する姿勢を間近で見て、周りの子どもたちは「清掃ってこうやってやるんだな」「こうするときれいになるんだな」「こうすれば時間内に終わるんだな」などを身につけていきます。これまで私語や笑い声が聞こえてきたこともありましたが、現在はそうした声はほとんど聞こえなくなりました。清掃の手順ややり方を理解し合い、充実した清掃時間が過ぎていきます。リードする先輩は全体を見たり周りの子どもたちを指導したりします。周りの子どもたちは徐々に信頼を寄せ、あこがれを抱くようになります。こうした双方の関係は、よりコミュニケーションが図られると、信頼、あこがれ、癒し、自信、責任感へと移っていきます。今年の子どもの活動に期待しています。

<運動会に向けて>

6月1日に運動会を予定しています。

私たちは、運動会は「保護者の方々、地域の方々の協力を得ながら行う、壮大な『授業』」と考えています。そのため以下の3つの意識を大切にしています。

①「練習」から「追究」へ

単調な繰り返しではなく、「リレーのバトンをさっと渡すためにどうするか話し合う」「ダンスをそろえて踊るために友だちと見合ったり意見を出し合ったりして工夫する」「カーブでスピードを落とさないように走るにはどうするか考える」など、当日に備えて追究を続けます。

②「仕上げる」から「積み上げる」へ

「一昨日より昨日」「昨日より今日」「今日より明日」というように、子どもたちは頑張りを積み上げながら当日を迎えます。「運動会が終わってすべて終わり」ではなく、今後も追究は続いていきます。完璧を目指すのではなく、今までやってきたことの積み上げを自覚することを大切にします。

③「失敗を叱る」から「育ちを意味づける」へ

当日に向けて気持ちが高まるのは、「ここができるようになった」「今週はここが伸びたぞ」と自分で自覚できるからではないかと思えます。子どもたちの育ちを、友だち、学校職員、お家の方が共有し合うことによって、更なる意欲へとつながっていくように思います。

運動会が終わって、「体を動かすのが楽しい」というつぶやきが出るような一日にしたいと思えます。グラウンドを使って全校で行う子どもたちの「授業」を、ぜひご覧いただきたいと思えます。

<お礼>

5月11日(土)の古紙回収では、早朝よりご協力いただきありがとうございました。今後、PTA作業や運動会前日準備等が続きますが、引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。